

「高齢化社会 今どう生きるか ～秋山正仁様(T31)～」

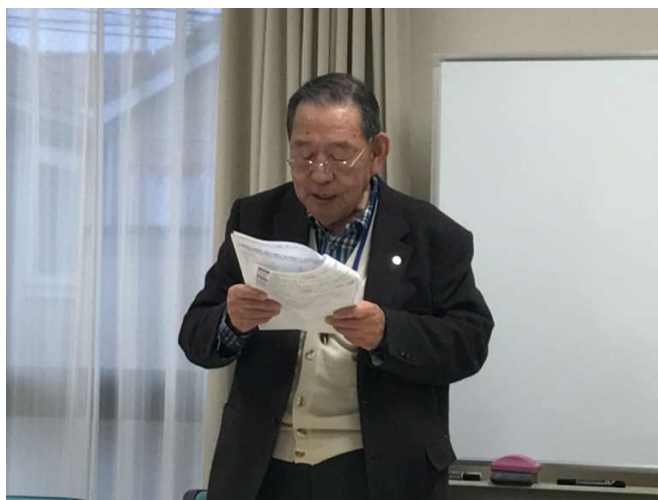
事務局 T38 高谷 正紘

令和元年 12 月 13 日、京王クラブにて幹事会終了後、会員を対象に「高齢化社会 今どう生きるか」の演題で秋山正仁様(T31)のミニ講演会を行いました。

秋山先輩は、東京都多摩市在住山梨県出身者でつくる県人会「多摩市県人会」会長、首都圏在住の早川町出身者で構成する「在京早川会」顧問を長年務めました。

多摩市議 5 期 20 年の経験と人脈を生かしながら、会員同士の絆と郷里の発展に、母校の本部同窓会、甲工東京同窓会にも長年ご支援ご協力をいただいております。

早川町で 5 人兄弟の長男に生まれ、実家は農家だったが、「電気の専門的な知識を学びたい」と甲府市内の親戚の家に下宿しながら甲府工高に通ったそうです。卒業後は 20 歳の時、町内で当時「三種の神器」のテレビや冷蔵庫を扱う家電販売業「秋山電器商会」を開設、売上を順調に伸ばした。程なくして肺結核を患い健康上の問題から仕事を辞める。「農業をするには体力がない早川町で新しい仕事を見



つけることも難しい」として、上京して就職することを決断、新聞の求人広告で見つけた電気工事会社「東電通」に入る。高度成長期で仕事には困らず、中央自動車道笹子トンネルや石和町(現笛吹市)立病院の電気設備や照明工事を請負い「全国を出張で飛び回る忙しい毎日を送る」。

人生の転機が訪れたのは、40 代半ば住んでいた多摩ニュータウンで打ち込んでいた自治会活動が評価され、周囲から多摩市議への立候補を打診された。1 年間固辞したが「地域の実情を誰よりも知っている」と立候補を決断する。1983 年から 5 期 20 年務め、行政改革を市に提言する活動に力を注ぎ、ゴミ袋の有償化を提案すると収集量が 2～3 割減った実績、市内小中学校の電力契約の見直しを訴え予算の無駄を削減できた。84 年には多摩市に電気工事会社を設立、甲府のスポーツ用品販売会社の社長と親しくなり、都内の店舗や県内のスキー場などで仕事を得る。「県人同士の結びつきから得た仕事も少なくない。ふるさとを離れても山梨の人達に支えられてきた」と感謝しています。

政治から退いた今は、県人会活動に打ち込んでいる。2006 年から会長を務める「多摩市県人会」、ふるさとの「在京早川会」、多摩市の「多摩プロバスクラブ」等でも活動されております。

健康面では、8 月に体調不良で 119 番で搬送され、3 日入院し熱中症との事、東京同窓会の皆さ

んに心配かけましたが、8月23～24日と「本部同窓会ツアーIN金沢」の一泊旅行を終え無事に帰宅し、9月8～9日は日野法人会の長野善光寺参り、11月には税務署から表彰されるなどありました。11月から放射線治療のため通院中で1月中旬には終了するとの事ですが、この講演会での秋山先輩の言葉をまとめてみました。

- 1.「地域との絆を結び、すべては出会いから始まる」
- 2.「同窓会行ける人、同窓会に行けない人に分けられる」
- 3.「同窓会に限らずあらゆる会合にはドラマがある」
- 4.「会合に参加することが人生100年時代を生き抜く力になると思います」
- 5.「人のためには自分のため」

引き続き行われた懇親会は、京王クラブで会場を移し、保坂副会長の司会進行により参加者の親交を深め、一同盛り上がり有意義な1日でした。

.. ミニ講演を終えて ..

甲工の秋山先輩(T31)の担任は中山高善先生ですが、志田事務局長、高橋、長田、高谷の4名(T38)の担任も同じ中山先生でした。クラス会、同窓会で中山先生と会う度に、必ず先生は「上京の折々に秋山先輩が京王プラザホテルを予約してくれた話」を、自慢げに嬉しそうに話されていた当時を思い出します。

